

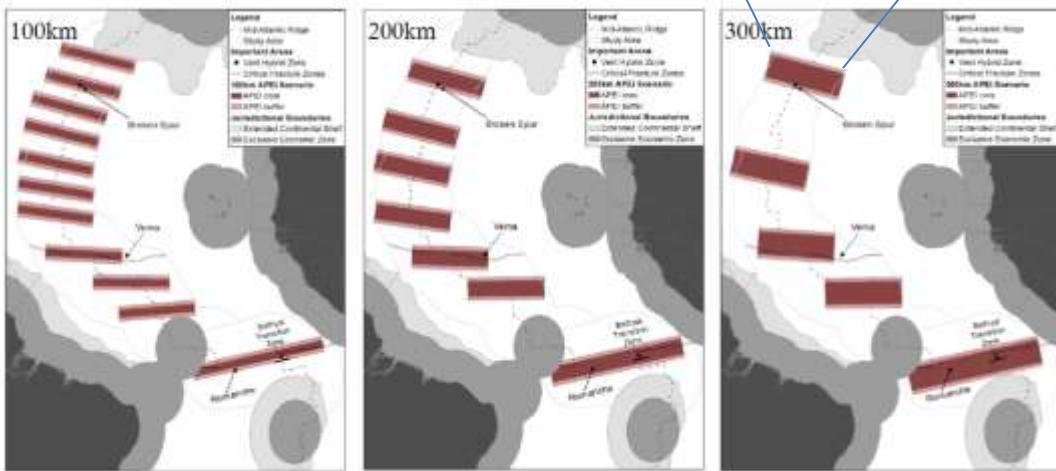
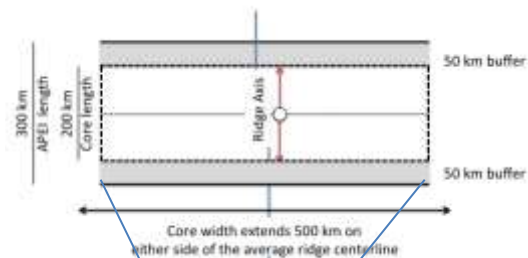


## ② 北大西洋中央海嶺（熱水鉱床開発申請海域）における APEI の考え方（案）

【概要】北大西洋中央海嶺の熱水鉱床開発には3カ国（ポーランド、フランス、ロシア）が探査申請を許可されている。当該海域についてのREMPの策定のためのWSが2018年6月27～29日にポーランドにて開催され、枠組み等についての議論が始まったところ。APEIについては、設定に関する案がいくつか提示された段階。

### 【設定の考え方（提案）】

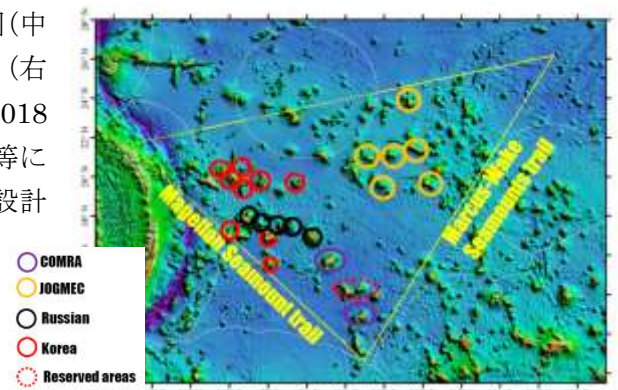
- ・各生息地タイプの30～50%を含むように目標を設定。
- ・重要エリア（Vent Hybrid Zone、Fracture Zone等）の包含、連続性の確保、海嶺軸に沿っての保全等を勘案。
- ・活動熱水噴出域の間隔（64km～74km）、底生生物の移動及び幼生分散の距離（74km～100km）を勘案し、APEIは分散範囲の2倍は必要であるとして200km<sup>2</sup>のコアエリアを設定。
- ・熱水鉱床開発にあたって想定される排出プルームの拡散を10kmと想定し、海嶺軸上下に50kmのバッファゾーンを設定し、コアエリア同士の距離を100km、200km、300kmとシナリオを変えて検討（下図）。
- ・2018年7月～9月にWSを受けたREMPの勧告案を法律・技術委員会（LTC）に提出予定。引き続き2019年にフォローアップを行う。



Dunn, Van Dover et al. による案(WSプレゼンテーション資料、ISAウェブサイトより)

## ③ 北西太平洋（コバルトリッチクラスト開発申請海域）における議論

【概要】北太平洋のコバルトリッチクラスト開発には4カ国（中国、韓国、ロシア、日本）が探査申請を許可されている（右図）。当該海域についてのREMPの策定のためのWSが2018年5月27～29日に青島（中国）にて開催され、枠組み等についての議論が始まったところ。WSの目的とREMP設計のための枠組みや今後の調査、情報共有などの議論がなされた。2018年7月～9月にWSを受けたREMPの勧告案を法律・技術委員会（LTC）に提出予定。引き続き2019年にフォローアップを行う。



各国の鉱物資源開発の申請状況  
(WSプレゼンテーション資料、ISAウェブサイトより)